

A STRONG CLASSIC

TARGA 37

トラディショナルなパイロットハウス、逆傾斜したフロントウィンドシールド、いかにもフィンボートらしい風貌を持つ「TARGA (タルガ)」の定番モデルの一つ「TARGA 37」がリニューアルした。「35」、「44」、「46」などのクラスではすでに採り入れられていたアフトドア、さらに「Hi-Fly」と呼ばれる5名搭乗可能な広めのフライブリッジ仕様。オプションとは言えないような大幅なレイアウト変更がなされた「TARGA 37」が、2018年6月にフィンランド南西部の町Nauvoで行われたFINNBOAT FLOATING SHOWに登場した。

text: Atsushi Nomura photo: Kari Wilén [FINNBOAT], BOTNIA MARIN
special thanks: BOTNIA MARIN www.targa.fi



TARGA ロングセラーモデルに追加されたアフトドア+コンフォートフォアキャビン 高い耐候性と抜群の走行性能を誇る、ヘビーデューティーな 37 フッター



1976年に創業した「BOTNIA MARIN (ボートゥニアマリン)」にて製造されている北欧フィンランド生まれのボートブランド「TARGA (タルガ)」。23～46フィートのレンジに数々のパイロットハウス艇を揃える。同社はプレジャーボートの他にも、さまざまなプロフェッショナルユースに対応したワークボートを建造しているフィンランドの名門ビルダー。40年以上の歴史を持つ、フィンボートの代表格とも言える存在だ。今回紹介する「TARGA 37」は1998年に初号艇がデビュー。以来20年間にわたってブラッシュアップを繰り返してきた定番モデルだ。本来プレジャーユースのボートだが、例えばグリーンランドでは商用・観光用の輸送艇としても使用されており、その信頼性、耐航性は折り紙付きである。

*

Nauvoのマリーナに係留された「TARGA 37」は、スタンダードのハルカラー Albatross Whiteとウォーターラインデザイン Classic Double。TARGAのハルカラーは8種類あり、海鳥からインスピレーションを受けた名称が付けられている。スタンダードのAlbatross Whiteは、TARGA Whiteとも呼ばれる少しクリームがかった色味である。

棧橋を離れ、さっそくパイロットハウス内のロアステーションにてステアリングホイールを握る。パワートレインはVOLVO PENTA製D6-400(400馬力)を2基掛けしたスターンドライブ仕様。なおエンジンバリエーションは豊富に揃い、スターンドライブ仕様の場合、260馬力×2基～400馬力×2基まで5種類。IPS仕様の場合、400馬力×2基～600馬力×2基まで3種類。今回の艇はスターンドライブ仕様の最大馬力となる。

事前のカタログやホームページの情報によるとトップスピードは38ノットだったが、実際にはもっと速い。他のボートの引き波を避けてフラットな水面に出て全速走行を試してみる。GPS読みですぐさま42ノットをマークする。そのままのスピードを保ってスラロームに入るが、スターンドライブらしい素直な挙動で非常に操船しやすい。特に高速旋回時の傾き方がスムーズで、非常に好感が持てた。同じ日に試乗したIPS仕様の「TARGA 46」



VOIVO PENTA D6-400馬力×2基はスタンダード仕様の最大馬力。スロットルレバーを倒すとあっという間に立ち上がり、すぐさま42ノットをマークする。旋回時も素直な挙動で非常に操船しやすく、引き波に当ててもほとんど滑らずに力強く針路をキープ。さすが、TARGAの走りは素晴らしい！



まるで家具のような暖かみあるウッドを基調としたインテリア。ヘルムのメーターや航海計器類は見やすく配置され、コンパクトなギャレーにはガスコンロにレンジも備わる。アウトサイドのフォアデッキは、フォアキャビンがCFC仕様のため、全体に高くなっている。デッキは全周ノンスリップ加工。滑りにくく、ウィンターブーツでも安全にデッキワークが行える。

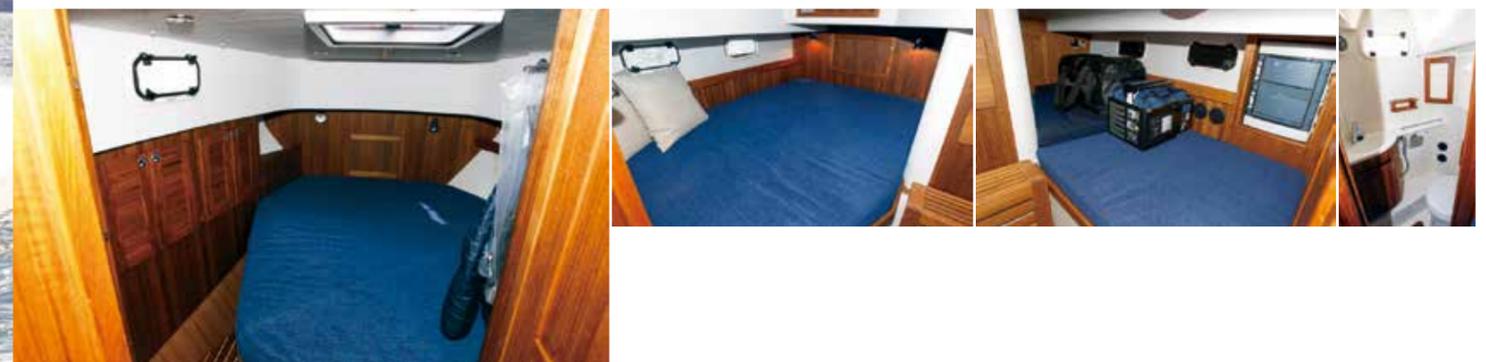
(2018年9月号掲載)はまるでランナバウトのようなアグレッシブな走りが特徴的だったが、「46」よりもスピードが出ている「37」の方が、より安定して落ち着いた感じの走りだった。さらにトップスピードのまま、他のボートの引き波に突っ込む。派手にスプレーは上がるものの衝撃は驚くほどに少ない。引き波を艇体に斜めに当ててサーフィンさせるが、ほとんど滑らずに力強く針路をキープする。やはりTARGAの走りは良い。ヘビーデューティーなシーンで使われるだけのことはあると改めて納得する。

またジョイスティックコントロールも可能で離着岸も比較的容易に行える。ちょうどアフトデッキの左舷側、フライブリッジへのアクセスステップの脇にもジョイスティックがあるため、シングルハンドでの離着岸時には、ここでコントロールした方が簡単だろう。今回はフライブリッジでの操船はし

なかったが、他のドライバーの操船中にFBにも登ってみた。傾きが緩やかなため高速旋回時も恐怖感はなく、爽快、かつ視界も良好。天候が良ければフライブリッジでの操船が楽しみだ。

*

今回の「TARGA 37」は、アフトドア+Hi-Fly仕様で、スタンダード仕様からかなりレイアウトが変更されている。パイロットハウスにはアフトドアの他、両舷には従来通りサイドドアが設けられている。ドライバーズシート脇のサイドドアは非常に便利で、離着岸の際はもちろんさまざまなクルーワークのシーンで使い勝手が良い。しかしゲストのことを考えるとアフトドアの利便性は高く、両サイドおよびアフトと、キャビンに3つのドアがあるというのはキャプテンとゲストの両方にとってバターのレイアウトと思える。





スライド式のアフトドアはパイロットハウスの右舷側。パイロットハウス内は右舷よりにウォークスルー、その左舷にダイネットスペースが配置される。前部の右舷にドライバーズシート、左舷にパッセンジャーシートという配置は変わらない。ドライバーズシート後ろのキャビネットには2つ口のガスコンロとレンジがビルトインされている。スタンダード仕様ではコンロの他にシンクも設けられるが、アフトドア仕様の場合、左舷パッセンジャーシート前のコンソールにシンクが設置される。

ドライバーズシートとパッセンジャーシート間のステップを降りると、かなりのヘッドクリアランスを誇るフォアキャビンとなる。2010年から採用されているCFC(Comfort Fore Cabin)という仕様で、正面にアイランドタイプのダブルベッドが配置されている。天井までの高さは180cm以上あり、背の高いフィンランド人でも寛げる空間。さらに個室ヘッドも右舷側に設けられている。

アッパーキャビンに戻り後方へ。アフトドアを入ってすぐ左にロアキャビンへのアクセスステップがある。降りると目の前に個室ヘッド。前寄りには簡易的な仕切りで右舷にシングルバース、左舷にダブルバースが配置されている。このあたりのレイアウトは従来モデルから大きな変更はない。サロンを含め7名程度が宿泊できる。



いかにも北欧のボートらしいクラシカルで均整のとれたスタイリングが美しい。CFC仕様のフォアキャビンは天井高が180cm以上もあり、かがむことなく快適。アフト寄りのミッドキャビンにはシングルとダブルの二つのバースが並び、個室ヘッドもフォアキャビンとミッドキャビンにそれぞれ備わっている。

デッキレイアウトはパイロットハウスタイプの全周を覆ういわゆるウォークアラウンドデッキとなっている。フォアキャビンのヘッドクリアランスを確保するためにフォアデッキは少し高くサイドに2段のステップがある。サイドデッキはかなりワイドで、前後のアクセスも楽だ。広々としたアフトデッキにはテーブルをセットでき、極上のピクニック空間となる。ちょうどFBへのアクセスステップの一段目を兼ねるボックスがシート代わりにもなるが、細かなアイデアはさすがと思わせる。デッキ面にはエンジンルームにアクセスしやすい2枚の大型ハッチが設けられている。外に向かって開き、アフトデッキ後ろのプラットフォームがとても広いのでエンジンのチェックもしやすい。

*

以前の「TARGA 46」の記事でも触れたが、TARGA特有のインテリアの暖かみあるウッドと落ち着いた雰囲気は、フィンランド本国でも「元ヨット乗り」からとくに評価が高い。今回の「TARGA 37」は、3ドア&フライブリッジと日本でもユーザビリティの高そうな仕様。素晴らしい耐航性能を持つ37フッターで、日本の海を駆け巡ってみたい。 **P.B.**

TARGA 37

全長 12.36 m
 全幅 3.50 m
 喫水 1.10 m
 重量 8.20 ton
 エンジン 2×VOLVO PENTA D6-400
 最高出力 2×400 HP
 燃料タンク 1,350 L
 清水タンク 230 L
 スピード Max 30-38 kt
 問い合わせ先 ウィンクレル TEL: 045-681-0104
 www.sports-w.com/yacht



You Tub